

山口大学医学部

霜仁会会報



第306号

令和6年10月発行

発行人 福田進太郎

霜仁会事務局 TEL:0836-22-2029

FAX:0836-31-7586

E-mail:jimu@soujinkai.jp

HP:http://soujinkai.jp/

印刷所 瞬報社オフリン印刷(株)



令和6年度山口大学医学部 関連病院長協議会・総会

令和6年8月4日(日) 国際ホテル宇部「ダイヤモンドホール」において、令和6年度山口大学医学部関連病院長協議会総会および医学部臨床系教授との意見交換会が開催された。去年は4年ぶりで従来の形式で開催されたが、残念ながらコロナ感染の再拡大の影響で当初行う予定であった懇親会が、急遽中止となった。第19回となる本会総会の出席者は、58関連

病院中43病院長、関連病院管理者・理事長5名、霜仁会会長・担当理事に、オブザーバー参加として、山口県健康福祉部・石丸泰隆部次長、医療政策課・植木純治課長、田中一彦主査、霜仁会理事・事務局長が同席した。

【総会】

武藤正彦会長挨拶…コロナ感染流行拡大により急遽懇親会を中止した経緯の説明に続いて、この協議会は、関連病院、山口大学医学部との共存共栄の推進をはかることを目的としているが、さらに行政からも山口県健康福祉課から貴重な情報提供があるなど協力体制の構築に役立っていると思っている。2040年、2050年の医療行政の舵取りは、すでに国では始まっており、山口県内の安定的医療資源の供給・確保がこれからの重要課題であることに変わりがない。厳しい状況を打破すべく、有意義な活発な協議会としていただきたい。

報告事項…令和5年度会計収支報告・監査報告があり、幹事会(令和6年4月16日にリモート開催)報告では、協議内容の検討がこなわれたこと、新幹事として長郷国彦病院長(下

【総会】

武藤正彦会長挨拶…コロナ感染流行拡大により急遽懇親会を中止した経緯の説明に続いて、この協議会は、関連病院、山口大学医学部との共存共栄の推進をはかることを目的としているが、さらに行政からも山口県健康福祉課から貴重な情報提供があるなど協力体制の構築に役立っていると思っている。2040年、2050年の医療行政の舵取りは、すでに国では始まっており、山口県内の安定的医療資源の供給・確保がこれからの重要課題であることに変わりがない。厳しい状況を打破すべく、有意義な活発な協議会としていただきたい。

報告事項…令和5年度会計収支報告・監査報告があり、幹事会(令和6年4月16日にリモート開催)報告では、協議内容の検討がこなわれたこと、新幹事として長郷国彦病院長(下

部医療政策課の植木課長より、山口県の医師確保対策として、①県の医師の現状と課題②医師確保に向けた県の取り組み③医師の働き方改革について、問題点の基本認識として、医師数は微増、35歳以下の若手医師減少、医師平均年齢53.3歳(全国2位)、医師偏在指数22.8人(全国32位、山陰柳井地区は200人以上)、医師確保対策の効果は限定的(卒業生県内定着率55%)、働き方改革は安心・安全な質の高い医療提供のために重要であることが説明された。

医療人育成センター教授で霜仁会副会長の黒川典枝教授から、山口県内研修医および山口大学専門研修の現状に関して、令和6年度臨床研修医採用予定者数は定員132人でマッチ率55%72人であり、県内研修医数は84名、山大入局者数55名といずれもここ数年横ばい状態では変化はない。内科入局者数は12名であり若干増加したこと報告があった。

続いて、働き方改革および診療報酬改定後の各病院の現状と対策について、東部地区の岩国医療センター田中屋宏爾院長、県中地区

理事會報告

第3回理事会

令和6年6月21日(金)

から県立総合医療センターの池田安宏副院長、三田尻病院の豊田秀二病院長、宇部興産中央病院の西崎隆文病院長、西部地区から済生会下関総合病院の森健治病院長からの現状報告があった。病院経営に深刻な影響を与えている診療報酬改定に対応しながら、地域医療をなんとか維持するために奮闘されている厳しい現場からの報告が続いた。

【医学部臨床系教授との意見交換会】

松永和人医学部附属病院

長、田邊剛医学部長、次いで消化器内科学講座

高見太郎教授、泌尿器科学講座

白石晃司教授、放射線腫瘍学講座

田中秀和教授から御挨拶があり、意見交換会となった。へき地医療・地域医療構想・救急医療に関する諸問題、大学医局の人事権の将来、医師少数県の地域枠・専門医研修の教育システム等についての意見交換がなされた。

今回の協議会は、人口減少という厳しい将来の医療状況に対して、持続可能な医療を維持するために必要な具体的対策が問われた有意義な協議会であったことを確認して閉会となった。

(城戸研二)

第4回理事会

令和6年7月19日(金)

19時から医学交流会館3階会議室において、21名の出席のもと開催された。

【報告事項】

1. 5月20日(月)

第35回山口大学同窓会理事會

事會 (福田)

2. 6月8日(土)

鳳陽会第94回通常総会懇親會 (福田)

3. 6月14日(金)

デジタルWG (矢賀)

4. 6月20日(木)

北九州支部総会・懇談會 (福田)

【審議事項】

1. 医学科2年生との懇談會・懇親會について、9月5日(木)17時から開催することが確認された。

2. 2号会員入会申込みについて、諮られた承された。

3. その他

・宇部支部会、山陰支部会、福岡支部総会及び岡山支部会への出席予定者を確認した。

第3回理事会

令和6年7月19日(金)

19時から医学交流会館3階会議室において、24名の出席のもと開催された。

【報告事項】

1. 7月18日(木)

宇部支部会 (福田)

【審議事項】

1. 山口県臨床整形外科医會が主催する市民講座「骨と関節の日」への助成が承認された。

2. その他

・山口大学医学部関連病院長協議会総会・懇親會打合せの出席予定者を確認した。

令和6年度 霜仁会賞募集のお知らせ

第54回 学術振興賞 第44回 社会活動部門賞

- 1 今年も霜仁会賞を募集しますので奮ってご応募下さい。
- 2 応募〆切 令和6年10月31日 (消印有効)
- 3 詳しくは、霜仁会ホームページ(<http://soujinkai.jp/>)を参照して下さい。
不明な点は霜仁会本部にお問い合わせ下さい。 TEL (0836) 22-2029

《事務局からのお願い》

事務局からの郵便物が、転居先不明で多数戻ってきます。
住所・所属等に変更がありましたら、ファックスまたは、Eメールでお知らせください。

霜仁会事務局

FAX: (0836) 31-7586 E-Mail: jimu@soujinkai.jp



第53回霜仁会学術振興賞

本賞

「遺伝的な血液脳関門の破綻素因が多発性硬化症の病状進行に関わる」

山口大学大学院医学系研究科 臨床神経学

西原秀昭 (平21年卒)



この度は由緒ある霜仁会学術振興賞本賞を賜り、誠にありがとうございます。ご選考いただきました学術選考委員の先生方に心より感謝申し上げます。私は山口県防府市出身で、平成21年に山口大学医学部を卒業しました。様々な理由がありますが、最終的には、神田隆前教授の血液脳関門(BBB)の講演を学生時代に聞いたことがきっかけで、臨床神経学講座に入局し創薬研究を志しました。大学院修了後、スイスへ留学し、受賞論文の基盤となるTIS細胞からのBBBモデルを作製しました。当初は既存の手法を用いて、1

TIS細胞由来のBBBモデルが、これまでの研究サンプル不足という問題を解決し、BBB機能解析や破綻機序解明、新たな治療戦略開発に有用であることを示しました。現在はこの独自手法を他の神経疾患にも応用し、BBBを診断・治療標的とすることを目指し、臨床に還元できる研究を行いたいと考えています。

最後に、私の脳神経内科医としての基礎をご指導いただいた神田隆先生と、研究環境をはじめとして多大なるご支援をいただき、中森雅之先生に深く感謝いたします。また、研究室のメンバーや研究時間確保のために日頃から支援いただいている医局員の皆さんに感謝申し上げます。山口大学ならびに霜仁会の発展につながる「山口から世界に向けた」研究ができるよう今後とも精進して参ります。

受賞論文では、多発性硬化症患者由来のBBB構成内皮細胞を作製し、疾患BBBを実験室に再現できること、BBB構成細胞の異常が病因に直接関与することを示しました。また、

奨励賞

「IL7及びCCL19の産生は腫瘍抗原特異的TCR-T細胞の抗腫瘍効果を増強する」

山口大学医学部附属病院 第三内科

徳永良洋 (平23年卒)



この度は、伝統ある霜仁会学術振興賞奨励賞にご選

出賜りまして誠にありがとうございます。この度、ご評価頂いた論文は、私が2014年から2021年まで実に7年間に渡ってお世話になった山口大学免疫学講座でお任せ頂いた遺伝子改変T細胞受容体発現T細胞療法(TCR-T細胞療法)に関する基礎研究の成果を報告したものです。

TCR-T細胞療法は、キメラ抗原受容体発現T細胞(CAR-T細胞)療法と並んで近年大きな注目を集めている免疫細胞療法の一つです。CAR-T細胞は強力な抗腫瘍活性を示し世界初の遺伝子治療薬として2017年にFDAに承認されましたが、未だ万能とは言

えず、新しい機能を搭載した次世代CAR-T細胞の開発が進められています。そんな中、山口大学免疫学講座の玉田教授が開発された画期的な技術がPRIME技術です。PRIME技術によって作成されたPRIME CAR-T細胞はIL7、CCL19を産生することができ、CCL19により腫瘍局所へ樹状細胞やT細胞を動員すると同時にIL7の作用によりT細胞の生存を促すことで、より効果的な抗腫瘍免疫を發揮します。

本研究においては、このPRIME技術をTCR-T細胞に応用したPRIME TCR-T細胞が既存のTCR-T細胞と比較し強力な抗腫瘍活性を示すことを発見しました。また、近年注目されている複合免疫療法(免疫細胞療法+免疫チェックポイント阻害薬)の有効性が、PRIME TCR-T細胞および

PRIME CAR-T細胞の両者で認められることを実証し、同時に免疫チェックポイント阻害薬がPRIME TCR-T細胞そのものに加え内在性T細胞の抗腫瘍免疫を増強させることも確認しました。TCR-T細胞はCAR-T細胞とは異なる腫瘍抗原を標的とすることが可能であり、本研究は近年発展著しい免疫細胞療法に更なる幅と深みを与える一報であるものと自負しております。

研究の推進に際しましては、未熟な私を根気強くご指導賜りました玉田先生、佐古田先生、安達先生や免疫学講座の皆様方を始め、貴重な機会を与えて下さいました谷澤先生や、第三内科同門の先生方など実に多くの方々にご多大なご支援を賜りました。皆様にご心より御礼申し上げます。今後も頂戴したご恩に報い、霜仁会の発展に貢献できるよう益々邁進して参りたいと存じます。今後ともご指導(鞭撻)のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

PRIME TCR-T細胞および

奨励賞

「心臓型リアノジンレセプターとカルモジュリンの結合強化は圧負荷による心肥大シグナルを完全に抑制する」

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター
循環器内科



河野 通 暁

久留米大学医学部 (平22年卒)

この度は、伝統ある霜仁会学術振興奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。御選考いただきました委員の先生方に心より厚く御礼申し上げます。この度受賞となりました論文は「Enhancing calmodulin binding to cardiac ryanodine receptor completely inhibits pressure-overload induced hypertrophic signaling」です。本研究は、心筋筋小胞Ca²⁺ハンドリンググループで矢野雅文前教授をはじめとした実験班研究グループの先輩先生方が積み上げてこられた、Ca²⁺放出チャネルであるリアノジン受容体(RyR2)から、カルモジュリン(CaM)が解離しにくいよう1アミノ酸置換を加えたノックインマウス(RyR2^{V3599K/V3599K})を使用し、横行大動脈狭窄モデ

ルのマウスを作成し圧負荷肥大心におけるCaM/RyR2複合体の役割を調べたものです。本研究は、CaMのRyR2への結合を不可能にしたトリプルノックインマウスが、肥大型心筋症拡張相様の表現型を呈し、1か月以内に心臓死を引き起こすという事実を端を発し、逆にCaM/RyR2の結合親和性を強化すると心肥大が抑制され心不全死も抑制できるのでは、という仮説から始まっています。また、これまで山口大学第二内科のCa²⁺ハンドリンググループとして終始ご指導いただきました小林茂樹教授をはじめ、多くの先生方に厚く御礼申し上げます。

オ3D電子顕微鏡法の進歩によりRyR2の高分解能の立体構造解析が可能となり、三次元構造からもRyR2とCaMの結合は各々チャネルの安定化に寄与することが示唆されました。その積み上げられた知見や実験手法をもとに、本研究ではRyR2^{V3599K/V3599K}マウスにおいては大動脈縮窄を加えたマウスは、心肥大関連遺伝子の発現や心肥大、心不全への進展も抑制することが示されました。この結果は、RyR2安定化作用のあるダントロレンも同様に、圧負荷心における心肥大の抑制や予後の改善に効果がある可能性を示し、圧負荷心に対する新たな治療戦略となる可能性があり臨床的にも大変有意義なものであると考えられます。最後に、本研究の遂行、および論文作成に際してご指導、ご鞭撻を賜りました矢野雅文前教授、指導教官として終始ご指導いただきました小林茂樹教授をはじめ、多くの先生方に厚く御礼申し上げます。

「ドメインスイッチ仮説」があります、当時クライ

第43回霜仁会社会活動部門賞

「てんかんおよびパーキンソン病の手術を基盤とした包括的治療の推進普及活動」

山口県立総合医療センター 脳神経外科



藤井 正 美

(昭58年卒)

この度は伝統ある霜仁会社会活動部門賞を賜り、大変光栄に存じております。てんかんやパーキンソン病などの不随意運動症により日常生活に困っている症状を外科学的手法により緩和させる脳神経外科の一分野を機能脳神経外科といえます。21世紀に脚光を浴びるようになった新分野です。しかし1990年代、国内ではこの領域を専門とする医師は数少なく、私は米国留学で脳波・筋電図を研究したことを契機にこの分野に傾倒することになり、現在まで30年以上にわたりこの分野の普及推進に努めてまいりました。

てんかんに関しては、私が診療を始めた頃は黎明期で、自ら症例を集め、診断

の認可を受け、てんかん診

療の発展に寄与しています。

を下さることから始め、県内で初めて、てんかん手術を実施しました。その後大病院を拠点に診断から薬物および外科治療に至るまでおおよび外科治療に至るまでの包括的診療を確立してまいりました。臨床研究活動としては、2001年以降「てんかんの脳局所冷却による治療法の開発」をテーマに当時画期的であった医学工学連携研究として15年間研究を主導しました。この研究で多くの大学院生を指導し、その成果は一流英文雑誌にも掲載されました。診療・研究の傍ら日本てんかん協会山口県支部においても活動し、30年以上にわたり患者およびその家族への相談支援を続けています。2016年山口県立総合医療センター赴任後はてんかんセンターを設立、2022年には厚労省から「てんかん支援拠点病院」の認可を受け、てんかん診

療の発展に寄与しています。パーキンソン病に関しては、薬物治療が中心でしたが、2000年に外科治療である脳深部刺激(Dep Brain Stimulation: DBS)療法が保険認可され、普及が進みました。私は神経内科医と連携して、いち早くこの治療に取り組み、県内で唯一DBS装置埋込み手術ができる施設として確立しました。さらに治療の領域をジストニアや本態性振戦にも拡大し、医療従事者や患者会での講演などを通して、啓発活動を行なってまいりました。難病等が対象のため、手術件数は多くありませんが、県内では最も多くの手術を手掛けています。

以上、長年の機能神経外科での功績から、2023年1月には2つの全国学会の会長を務めさせていただきました。さらにこれからも、この分野の発展と人材育成に寄与できればと思っておりますので、皆様のご支援を賜れば幸甚に存じます。最後に、今回の受賞にあたり、ご指導、ご支援を頂いた多くの皆様へ感謝いたします。

学内報告

キャリアナビゲーション

山口大学の開催

山口大学医学部附属病院 医療人育成センター研修医・専門医支援部門では、令和6年6月13日(木)に山口大学医学部附属病院医心館1階食堂において、進路説明会「キャリアナビゲーション@山大」を開催しました。

本事業は、山口大学で臨床研修や専門研修を行う魅力。



各診療科のブースでは、各科の研究の特徴や研修教育体制、専門医資格の取得を含めたキャリアサポート体制等について、指導医の先生が分かりやすく丁寧に説明され、様々な情報交換があり、会場は至る所活気にあふれていました。

医療人育成センターブースでは当院プログラム所属の研修医と学生が自由に話せる場が用意され、研修に関する様々な疑問や研修医生活の実態などについて話し、非常に有意義な時間となったようです。

参加者アンケートでは、

「実際に先生方とお話することで、イメージや具体性が高まりました。」「色んなお話が聞けて参考になりました。ありがとうございました。」「入局してからの話や色々なキャリアプランについて詳しく聞くことができて勉強になった。」「などの声をたくさんいただきました。

ご多用の折、ご出展いただきました各診療科の先生方やご後援をいただきました医学部医学科同窓会霜仁会様にお礼申し上げます。

今後一層充実した説明会となるよう努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

(医療人育成センタースタッフ一同)

循環器内科診療における治療の進歩

大動脈弁狭窄症に対するTAVI(経カテーテル大動脈弁植え込み術)を、ハートチームとして第一外科と合同で行い、2023年は84件と過去最高となりました(2021年39件、2022年51件)。透析患者の大動脈弁狭窄症に対するTAVIも開始しました。

「透析中に血圧が不安定となる」、「胸部不快感が生じる」などにより安定した維持透析の継続が困難となった患者様への新たな治療選択として扉が開かれたこととなります。また、遺伝性(奇異性)脳梗塞の再発予防を目的とした経カテーテル卵円孔開存(PFO)閉鎖術を2021年から開始し、21年2件↓22年4件↓23年11件↓24年7月末現在5件と増加しております。

心房細動の患者様の脳梗塞を防いで出血合併症を減らすWatchman(経皮的左心耳閉鎖術)も2022年から開始し、22年1件↓23年14件↓24年7月末現在8件と増加しています。外科的治療が困難と判断された僧帽弁閉鎖不全症に対するMVC

MVC(経皮的僧帽弁接合不全修復術)を2023年から開始し、23年4件↓24年7月末現在10件と増加しています。また、CTDPA(慢性血栓性肺高血圧症)に対するBPA(バルーン肺動脈形成術)を2022年から開始して、22年2件↓23年59件、24年7月末現在54件と症例数が増加しております。不整脈カテーテル治療領域でも新しい治療を積極的に導入しております。心房細動の治療に対して9月から新しいエネルギーソースによるアブレーションであるPulsed Field Ablation(PFA)を開始します。ペースメーカー治療では、生理的な心臓収縮を再現するために、刺激伝導系を先に興奮させる刺激伝導系ペーシング(左脚ペーシングなど)、リードレスペースメーカーを積極的に活用しております。

(器官病態内科学講座 佐野元昭)

記事募集

年4回発行しています霜仁会会報では、会員相互の交流を目指した紙面づくりを目指しています。さらなる紙面充実のため、支部会、クラス会、支部会員あるいは近隣会員の活躍、最近の出来事をご一報いただけましたらありがたく存じます。

例)支部会、クラス会(報告、案内)、最近の著作物、芸術作品(市展、県展、二科、帝展…)、表彰、褒章、オリンピック参加、チームドクター、趣味(冒険、旅行、芸術、音楽、文芸、工芸…)、海外留学、海外旅行、社会活動(国内・海外ボランティア)、地震・火山・自然災害の支援、苦勞

教室紹介

薬理学講座



霜仁会の先生方におかれましては、日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

山口大学医学部薬理学講座は、本学前身である山口県立医学専門学校の開校翌年に開設され、この地で70年以上にわたり薬理学研究と教育を担当してきました。初代教授の山口弘孝先生をはじめ、2代目伴隆志先生、3代目乾誠先生と、歴代の教授はそれぞれの時代に沿った研究課題、例えば抗菌物質の薬理、神経薬理、循環器薬理などの分野で先駆的な研究を行い国際的な評価を受けられました。2019年末に私が4代目教授として着任してからも、講座は活気あふれる研究・教育の場としてダイナミックに成長しています。2020年には

優れた業績により倉増朝朗博士が昭和大学臨床薬理研究所の教授に就任しました。講座からの教授輩出は、山田泰枝博士が近畿大学教授に就任して以来の慶事であり、講座同門にとり大きな喜びとなりました。また多様な背景をもつ新メンバーが加わりました。2022年には獣医師の辻竣也博士が大阪大学から、2024年には薬剤師の坂本明彦博士と医師の竹本研史博士がそれぞれ金沢大学、サウスカロライナ医科大学から着任。彼らの専門は、人獣共通感染症、老化、ワクチン、臓器線維化、消化器疾患、移植医療と多岐にわたる。講座に新風を吹き込んでくれるものと期待しています。この体制のもと、歴代の先生方が築いてきた研究教育の精神を継承しつつ、未来医療を切り拓く研究に挑戦しています。具体的には当講座は免疫薬理学を主眼としており、従来、本邦において主であった循環器薬理学や神経薬理学から

変革を遂げています。近年、生命科学と医薬品開発技術が急速に進展し、とりわけ免疫系へのアプローチが大きく発展しました。従来の低分子薬を凌駕するような、免疫チェックポイント阻害剤や抗サイトカイン治療薬などの革新的な医薬品は、がんや自己免疫疾患等の難治性疾患に対する治療可能性を大きく広げています。さらに2019年には人為的免疫細胞を用いた細胞製剤が保険収載され、個々の患者に最適化された治療法（テーラーメイド医療）が現実味を帯びてきました。これらはいずれも、従来型の薬物治療では達成できなかった精度を持ち、個々人に対する治療効果を飛躍的に高めています。またこの30年間で誕生した分子標的治療薬は、例えば、がん細胞をピンポイントで攻撃できるため、副作用を抑えつつ、がん治療に大きく貢献しています。我々はゲノム解析や一細胞レベル遺伝子発現分析など最新技術を駆使し、多岐にわたる疾患領域で薬物作用の分子メカニズム解明と新規治療標的の発見を目指し、特に、免疫薬理学観点からサイトカイン信号、生体膜

輸送、細胞外マトリクスなどに着目して、基礎研究から得られた知見を臨床応用につなげるべく日々研究に邁進しています。また、医学部専門教育においては、学生が基礎薬理学からその応用までの幅広い知識と技術を習得できるよう、実践的教育プログラムを提供し、最新の研究成果を交えながら薬理学の面白さを伝えることを心掛けています。2020年から深刻化した新型コロナウイルス感染症は、教育現場にも大きな影を落としましたが、我々はこれを前向きに捉え、授業への「導」導入を積極的に行いました。学生達が将来、どのような技術革新にも対応できる人材として成長できるよう、今後も教育内容や教育手法の充実を図りたいと存じます。一方最近、疾病研究や薬剤開発のプロセスにおいて、患者様やそのご家族にも積極的に参加していただく「PPI (Patient and Public Involvement)」という概念が不可欠な要素として世界的に重要視されています。我々も、山口大学病院をはじめとする地域医療機関との研究連携だけでなく、患者様やご家族との対話を重視し、研究開発過程の透明性を高め、患者様の真のニーズを反映させた研究を目指して参りたいと考えております。この取り組みはまだ萌芽期にあり、さらなる努力が必要だと認識していますが、PPIに貢献できるような人材育成を行い、自らも研鑽することが講座の使命と考え、この活動を継続いたす所存です。医学・医療をとりまく環境は大きな変革期にありま

すが、薬理学講座は伝統を礎にしながら、革新的な研究と教育を通じて、未来医療の扉を力強く開いて参ります。世界に向けて発信する研究と、社会に貢献できる医療人の育成に邁進すること、山口大学医学部の発展に貢献できるよう日々精進したいと存じます。今後とも、先生方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(坂本明彦・朝霧成挙)

器薬理学や神経薬理学から

変革を遂げています。近年、生命科学と医薬品開発技術が急速に進展し、とりわけ免疫系へのアプローチが大きく発展しました。従来の低分子薬を凌駕するような、免疫チェックポイント阻害剤や抗サイトカイン治療薬などの革新的な医薬品は、がんや自己免疫疾患等の難治性疾患に対する治療可能性を大きく広げています。さらに2019年には人為的免疫細胞を用いた細胞製剤が保険収載され、個々の患者に最適化された治療法（テーラーメイド医療）が現実味を帯びてきました。これらはいずれも、従来型の薬物治療では達成できなかった精度を持ち、個々人に対する治療効果を飛躍的に高めています。またこの30年間で誕生した分子標的治療薬は、例えば、がん細胞をピンポイントで攻撃できるため、副作用を抑えつつ、がん治療に大きく貢献しています。我々はゲノム解析や一細胞レベル遺伝子発現分析など最新技術を駆使し、多岐にわたる疾患領域で薬物作用の分子メカニズム解明と新規治療標的の発見を目指し、特に、免疫薬理学観点から

輸送、細胞外マトリクスなどに着目して、基礎研究から得られた知見を臨床応用につなげるべく日々研究に邁進しています。また、医学部専門教育においては、学生が基礎薬理学からその応用までの幅広い知識と技術を習得できるよう、実践的教育プログラムを提供し、最新の研究成果を交えながら薬理学の面白さを伝えることを心掛けています。2020年から深刻化した新型コロナウイルス感染症は、教育現場にも大きな影を落としましたが、我々はこれを前向きに捉え、授業への「導」導入を積極的に行いました。学生達が将来、どのような技術革新にも対応できる人材として成長できるよう、今後も教育内容や教育手法の充実を図りたいと存じます。一方最近、疾病研究や薬剤開発のプロセスにおいて、患者様やそのご家族にも積極的に参加していただく「PPI (Patient and Public Involvement)」という概念が不可欠な要素として世界的に重要視されています。我々も、山口大学病院をはじめとする地域医療機関との研究連携だけでなく、患者様やご家族との対話を重視し、研究開発過程の透明性を高め、患者様の真のニーズを反映させた研究を目指して参りたいと考えております。この取り組みはまだ萌芽期にあり、さらなる努力が必要だと認識していますが、PPIに貢献できるような人材育成を行い、自らも研鑽することが講座の使命と考え、この活動を継続いたす所存です。医学・医療をとりまく環境は大きな変革期にありま

すが、薬理学講座は伝統を礎にしながら、革新的な研究と教育を通じて、未来医療の扉を力強く開いて参ります。世界に向けて発信する研究と、社会に貢献できる医療人の育成に邁進すること、山口大学医学部の発展に貢献できるよう日々精進したいと存じます。今後とも、先生方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(坂本明彦・朝霧成挙)



病院紹介

宇部中央病院



病院長 西崎隆文先生



霜仁会会員の皆様、このたびは霜仁会会報に当院の紹介をさせていただく機会をいただきます。誠にありがとうございます。当院は独立法人化（医療法人社団）し10年という節目を迎え、これを機に本年10月に「宇部興産中央病院」から「宇部中央病院」に名称変更することになりました。これからもどうかよろしくお願い致します。病院開設から今年で71年になりますが、1953年に結核療養所「宇部興産サナトリウム」が、周防灘を望む宇部市西岐波の高台に建てられたのが始

まりです。病院創設の歴史をさかのぼると、1914（大正3）年に宇部興産（現CIB株式会社）の前身「沖の山炭鉱組合」が、労働者の健康増進と労働災害医療を目的とした「沖の山炭鉱医局」を設立しており、「沖の山病院」「沖の山同仁病院」に改められたその病院は後に、医学教育に貢献したいという病院上層部の意向で、1947年に「山口県立医学専門学校（現山口大学医学部）」に移管（寄贈）されました。

当院は1981年に総合病院として承認を受け、1984年に夜間救急医療を開始しました。その後、脳卒中センター（現脳疾患治療センター）、消化器センター、救急センター、ハイケアユニット、健診センターを開設し、2015年に地域支援病院になりました。2017年に新病棟をオープンし、救急センター、手術室と一部の病棟を移転しました。現在の病床数は384で、高度急性期62床（うち24床が看護配置4対1）、急性期237床

（同7対1）、地域包括47床、回復期38床です。標榜診療科目は、消化器内科、循環器内科、糖尿病・血液内科、内科、総合診療科、呼吸器内科、脳神経内科、救急科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、眼科、放射線科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、病理診断科の22診療科です。職員は医師54名（うち研修医8名）、看護師330名、医療技術者146名、事務その他52名です。山口大学病院などからも多くの非常勤医師を派遣していただき運営しています。当院は高齢化社会で増えるがん、脳卒中、整形疾患、糖尿病などの専門的治療と、二次救急病院として救急医療に力を

入れており、地域医療に不可欠な中核病院として発展してきました。宇部・山陽小野田・美祿医療圏では12救急告知病院で二次救急医療輪番体制を構築しています。当院の輪番は年間136日と病院群では最も多く、輪番病院を支援するサポート日64日を合わせると年間200日を担当し、昨年は3,502件（救急搬送

活動をしており、今年1月の能登震災では山口県一次隊としてDMATをいち早く派遣しました。院内活動としては、コロナで休止になっていた患者や地域住民のための院内演奏会「きずな院内（旧コスモ）コンサート」を昨年から再開しました。また接遇を高く評価される病院を目指し、職員も互いに気持ちよく仕事のできる職場環境を作ること

2,236、ウォークイン救急1,266)の救急対応をしました。健診(年間11,048件)では昨年5月に新たにMRIを導入し、全身がん診断、乳がん検査、新たな脳ドック検査を開始しました。

初期研修医枠は5名で現在7名の初期研修医が在籍しています。研修指定病院として教育には力を入れており、内科、救急、画像診断、手術・麻酔など各診療科で研修医と指導医のマンツーマン指導が特徴です。総合診療科等の教育によりこれまで多くの初期研修医が学会で優秀演題賞を受賞しています。また医学生だけでなく薬学部、看護学科、リハビリテーション科の実習、高校生の病院見学も積極的に受け入れていきます。院内職員のキャリア開発にも力を入れており、最近2年間で看護師4名、臨床検査技師1名が、厚生労働大臣表彰、県知事表彰、県病院協会賞を、また薬剤師が県公衆衛生協会賞を受賞しました。福利厚生面では県内で最初に学童保育施設を併設し、また徹底した職員健診も行なっています。当院は民間病院としての機動性を強みとした社会

を目標として掲げています。これまで医療スタッフの確保に躍りになっていましたが、各部署の努力により、看護師などの職員離職が減少し、薬剤師や理学療法士も着実に確保できています。県内の医師確保には病院を挙げて今後も努力してまいります。

医書のことなら全てお任せ下さい。

- 常時 10,000点の在庫。
- 便利な試覧制度と即日納品も可能なスピーディー宅配便。
- インターネットによる医学書の最新情報の提供と注文が可能。

《日本医書出版協会認定
医学・看護学専門書店》

井上書店

宇部店 〒755-8566 宇部市南小串2丁目3番1号
TEL (0836) 34-3424 FAX 34-3090
e-mail : ube @ mm-inoue.co.jp

小倉店 〒802-0077 北九州市小倉北区馬借2丁目1-20
TEL (093) 533-5005 FAX 533-9789
e-mail : kokura @ mm-inoue.co.jp

[ホームページアドレス]

<http://www.mm-inoue.co.jp>

ご結婚・ご宿泊・会議・会食に

国際ホテル宇部

☎0120-375931

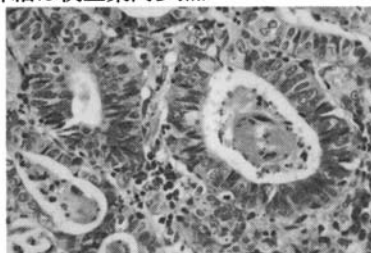
山口県宇部市島1丁目7-1

<http://www.kokusaihotel-ube.co.jp>

病理組織・細胞診検査 動物実験研究用病理標本作製

(詳細は検査案内参照)

- * 地域に貢献し、共に発展
- * 素早い対応、迅速、正確
- * 責任がもてる標本作り
- * 標本が教科書



一組織、細胞診検査の
集配業務行っております。ご利用の程をー

(社) 霜仁会検査センター

〒755-0046
宇部市南小串1丁目2-11
霜仁会医学交流会館2F
TEL : 0836-31-7510 FAX : 0836-31-7590

印刷を企画から在庫管理・発送まで

一括サポート!

まずはお気軽にご相談ください。

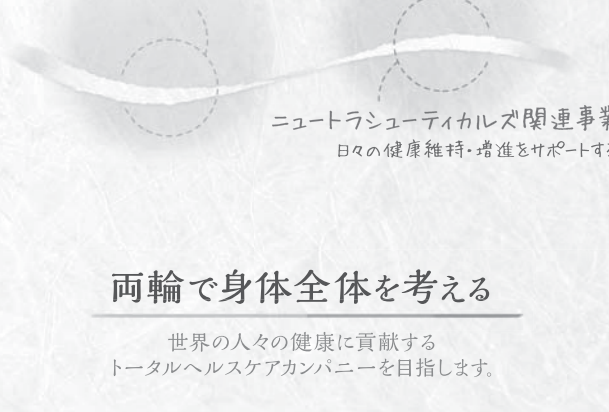
瞬報社オフリン印刷株式会社

[本社] 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷2410番地
TEL 083-972-5678 FAX 083-973-1912

[営業所] 広島・下関物流センター

医療関連事業

疾病の診断から治療までを担う



ニュートラシューティカルズ関連事業
日々の健康維持・増進をサポートする

両輪で身体全体を考える

世界の人々の健康に貢献する
トータルヘルスケアカンパニーを目指します。

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide



Otsuka 大塚製薬

<https://www.otsuka.co.jp/>

TEIJIN

Quality of Life

患者さんの健やかな笑顔のために。

一人でも多くの方が
生きることを前向きにとらえ、
しあわせを感じられるように。

帝人ファーマ株式会社

<https://www.teijin-pharma.co.jp/>

PAD018-TB-2006

山口大学医学部霜仁会の 会員総合補償制度

団体割引※が適用されるため、
保険料が割安です!!



※団体割引は毎年変動する可能性があります。
本チラシに記載の団体割引は、2024年4月1日～2025年4月1日までに
保険始期のあるご契約に適用されます。

中途加入受付中！ 中途加入の場合、毎月20日までにお申込みいただくと
翌月の1日が補償の開始日となります。

産業医等活動保険にもご加入できます！
(勤務医師賠償責任任意オプション)

地震や日常生活によるケガ
携行品 賠償責任を補償

団体割引 5%

傷害補償

- ◆国内外、24時間、事故によるケガを補償します。
(地震・噴火・これらによる津波)によるケガも補償します。
- ◆ケガ以外にも携行品の損壊など、様々なリスクを補償します。
- ◆年齢にかかわらず保険料は一律です。

会員総合補償制度のおかげで安心して医療に従事できます

万一の医療事故を補償

医師賠償責任保険 (勤務医向け)

団体割引 20%

働けなくなった時の収入を補償

団体割引 10%

所得補償

- ◆病気やケガで就業不能となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆入院はもちろん、自宅療養もカバーできます。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

万一のがん・病気・ケガを補償

団体割引 10%

がん補償

- ◆がんと診断確定されたとき、診断保険金が支払われます。
- ◆入院保険金は1日目から何日でも補償されます。
- ◆手術保険金は何回でも補償されます。(手術の内容・種類によっては回数の制限があったり、お支払の対象とならない場合があります)。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

医療補償

- ◆病気だけでなくケガによる入院も補償されます。
- ◆入院保険金は入院1日目から補償されます。(限度日数あり)。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

長期間働けなくなった時の収入を補償

団体割引 10%

団体長期障害所得補償

- ◆病気やケガで就業障害となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆長期にわたり(最長5年)生活費をお届けします。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

突然介護が必要になった時に保険金をお支払

団体割引 10%

介護補償

- ◆公的介護保険制度に基づく要介護2以上の認定を受けた場合
- ◆東京海上日動所定の要介護状態(要介護2用)と診断されその状態が90日を超えて継続した場合
いずれかの場合、保険金(一時金)をお支払いたします。

詳細はパンフレットをご覧ください。この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体生活総合保険の概要についてご紹介したものです。
詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡しする保険約款および協定書によります。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。尚、ご不明な点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

申込書類・資料のご請求やお問い合わせはお電話もしくはメールで下記取扱代理店までお願い致します。

<p>お問合せ先・取扱代理店</p> <p>株式会社パイオニア (平日)午前9時～午後5時</p> <p>〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町4-4-16 小泉第2ビル3階</p> <p>TEL: 0120-010-938 FAX: 0120-921-051</p> <p>http://www.pioneerltd.com yamadai@pioneerltd.com</p>	<p>引受保険会社</p> <p>東京海上日動火災保険株式会社</p> <p>(担当部) 医療・福祉法人部 東京都千代田区三番町6-4 〒102-8014</p> <p>TEL: 03-3515-4143 www.tokiomarine-nichido.co.jp</p> <p>募集文書番号: 2024年2月作成 23TC-008254</p>
--	--

いついかなる時も、いちばんそばに。

To Be a Good Company



ニューフェイス

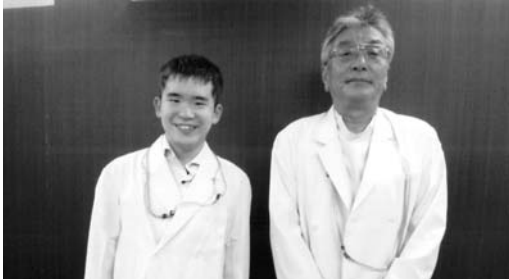
初期研修を経て志した道

山口大学医学部附属病院 第二内科

高梨 晃一

私は大阪府で生まれ、実家が広島県にあり、母方は代々山口県（主に宇部の岩鼻ですが、ほか岩国、萩、周南など）で、出身大学は富山大学です。初期研修は富山大学で行いました。初期研修医の時に山口大学での見学を通じて山口県で専攻医となることを決めました。初期研修を行っていた頃は将来的に総合診療科に進もうかと考えておりましたが、研修を通じて内科を専攻したいと考えるようになり、研修の終盤で循環器内科専攻医に進むことを志しました。

当院器官病態内科学では県内外の様々なバックグラウンドをお持ちの先生方がおられて、県外・他大学からの入局者もアットホームに迎えてくださいました。また、国境や分野に問わず幅広い視点を持ち、真っ直ぐに医療や研究・教育に携わられている先生方のお姿を身近で見学させてい



写真は左が私です。

ただき、自分もそのようになりたいと思うようになり入局後3ヶ月が経ち、日々学びたいことがたくさん出てきて日々時にいそがしく、時に反省しつつではありますが、上級医や同期4人にも恵まれ楽しく取り組ませていただいています。初心を忘れずに真摯に取り組み、貢献していきたいと思う次第です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

歴史と伝統ある山口大学医学部医学科に入学し、こうして新入生代表として筆を執っていることをたいへん誇らしく思います。大衆での生活は慣れないことも多くありますが、毎日也非常に刺激的で充実しています。特に、沢山のユニークな友達と素敵な先輩方、そして尊敬する先生方の存在が私を大きく成長させる原動力となっていると感じています。

先日、医学入門の一環として谷澤幸生学長の講演をお聴きする貴重な機会がありました。医学科の大先輩である学長のお話を通して、様々な新たな視点を獲得することができました。その中で最も印象的だったのが、昔は現実ではありえ

ないと思われていたことが時代の移り変わりに伴って実現しつつあるということです。学長のお気に入りだつたSFアニメ「スーパージェッター」には流星号という飛行マシンが登場するのですが、その頃は非現実的なものの代表であつた飛行物体が、今では大型ドローンという形で人類が実現可能なものになっていす。たとえば、2025年の大阪万博においては空飛ぶクルマの運用が目指されています。

このように人間の科学技術はとてつもないスピードで進歩し続けています。もちろん医療も例外ではありません。単なる機械の性能の向上に限らず、会話音声や歩行の動画から異常を警告したり、画像解析により疾患の診断を行ったりするなどといった、従来は人間がしていた仕事をこなせるほどのところまで技術は発達してきています。今後の

ジエネシス

社会の変化に伴って

医学科 一年 久保 璃奈



科学技術のさらなる発展に伴い、医療システム全体の効率性は格段に向上していくと考えられます。社会の変化に従って、医療従事者に求められることは変化していきます。医学の専門的な技術だけでなく、AI等の最新の知識を身につける必要が生まれてくるでしょう。ロボットにはできない、患者に寄り添うスキルのさらなる向上も求められるでしょう。そんな変化に柔軟に対応しつつ、苦しんでいる人を助けるといふ第一の目的を忘れない、そんな医師を目指して勉学に励んでいきたいと考えています。

第79回医学祭に向けて

医学科 四年 北島 正和



この度第79回医学祭にて実行委員長を務めさせていただきます。北島正和と申します。今年度も医学祭が開催できすこと、心から感謝申し上げます。関係各位の皆様へお礼申し上げます。医学祭は皆様のご支援・ご協力を賜りまして素晴らしい医学祭を実現することができました。コロナウイルスの影響を強く受けた昨年とは異なり、コロナウイルスによる規制を緩和する

ことができ、酒類の販売も解禁できたことでより自由な医学祭を実現することができました。コロナウイルス蔓延以前の本来の医学祭に段々と近づいてきており非常に嬉しく思います。今年度の医学祭のテーマは「医祭合祭〜みんなの力を分けてくた祭〜」です。本年度の医学祭は学生・卒業生・関係者の皆様はも

らこのテーマを考えました。今年度も医学祭は学会との共同開催で行われ、ステージ企画のみでなくドクターヘリの展示会やバザー、講演会など様々な企画を行う予定です。これらの情報をしっかりと発信し多くの皆様に参加していただける医学祭を目指します。昨年の医学祭では酒類の販売の解禁など新たな試みを行いました。し

6年生になって

医学科 六年 杉山尚平



6年生になってクリクラやマッチングなど、いよいよ医師として社会に旅立つ準備に励む日々です。入学した際には6年間の長さについていけるだろうかと思ふこともありました。今となってはあつという間の学生生活だったとしみじみ感じています。そんな学生生活の中でも、特に印象的であったのはおもしろプロジェクトを通じた研究活動

携共創推進課さんと産学官連携で研究を行うまでに成長しました。これまでに約100種類以上の農産品について研究を行い、宇部市の特産品である小野茶の抗菌性を活かした小野茶石けんや第三講義室の側に生えているビワの葉を利用したビワの葉チンキなどを開発し、山口大学の理念である「発見し はぐくみ かたちにする 知の広場」を実践する事が出来たと感じています。また、今年4月に吉田・小串のキャンパスで開かれた国際学会KJICOH2024では初めての学会発表を行う機会にも恵まれた他、昨年に引き続き2度目の学長賞を受賞することも出来ました。私事ながら宇部市に生まれ育ち、地域の人々に育てて貰った身として山口大学だからこそできる研究を通じて少しでも恩返しができる様にこれからも頑張っていきたいと思っています。最後になりましたが研究活動にご協力頂いている歯科口腔科学講座の三島克章先生と、基礎検査学講座の西川潤先生に厚く御礼を申し上げます。

です。おもしろプロジェクトは1996年に当時の学長であった廣中平祐先生が発案され、学生の自主的・創造的企画に対して研究費を助成する山口大学独自の支援事業として設立されました。その中で私は、山口県産農産品から作る新医薬品「山口から世界へ」という研究チームで山口県産の農産品の中からヒトの健康に有用な成分の探索と実証研究を続けて今年で3年目になります。当初は研究室のなかで行っていた研究も今では了A山口県小野茶生産組合さんをはじめ、萩物産協会さん、宇部市連



クラブ紹介

国際医療研究会

医学科 三年 村重百合子



外からの留学生との交流会を行ったりしております。コロナ禍の影響もあり、最近まで活動が滞っておりますが最近では徐々に活動を再開しております。

またInternational Federation of Medical Students' Association、通称IFMSAという世界の諸問題解決を目的として設立された団体と協力して山口大学に留学したい学生や山口大学から海外へ留学したい学生をサポートする活動も行っております。更にはスタディーツアーなどに興味がある学生を募って海外研修に行くことも可能です。2年前に国際医療研究会内でメンバーを募ってマレーシアに研修に行ってきました。マレー

山口大学医学部国際医療研究会の代表を務めさせて頂いております。また、医学科3年の村重百合子と申します。





シア内の病院や東洋医学に精通しているクリニックにお邪魔してたくさんのご縁を学ばせて頂きました。

今後の活動としては、8月の中旬から1か月間留学する予定のウダヤナ大学の学生の皆さん4名との交流会を予定しております。交流会は9月の頭に開催しますので皆さんぜひ遊びに来てください。

国際医療研究会は将来国際貢献に携わりたい人、海外が好きな人、留学生と交流したい人などを対象としてメンバーを募っております。今自分がいる場所に因わず、もっと広い世界を見たい方はぜひ国際医療研究会へお越し下さい。お待ちしております。

支部だより

八〇〇字程度の原稿を写真添付の上ご投稿下さい。

兵庫支部会

2019年5月25日の「武下浩先生を追悼する会」を最後にコロナ禍のため長らく霜仁会兵庫支部会懇親会を開催出来ていませんでしたが、この度、2024年1月13日(土)に約5年ぶりに開催することができました。場所は、神戸の老舗中華料理店の「第一樓」です。参加者はご同伴を含めて総勢26名でした。本部からは福田進太郎先生(S54、霜仁会会長)と矢賀健先生(S53、組織対策委員会委員長)がご参加くださり、本部や大学のお話をし

ていただきました。特に福田進太郎の「一番都会に見える山大病院の写真」にはおおいに湧きました。そのあと、参加された方々が順番に近況報告をしました。この紙面では全員のご挨拶の紹介ができませんので、私目線で一部を選んでご紹介いたします。いつも年輩の方々の参加が多くなる傾向があるのですが、今回は若者も多く、初期研修医では令和5年卒の沼田紘季先生

(R5)と河村仁道先生(R5)が参加してくれました。沼田先生のご参加の経緯ですが、私が兵庫県医師会主催のonlineの講師をしたときに、彼の奥様である祐美先生(R5、旧姓・中口先生)がおられ、彼女の出身が山大と聞いて本会にお誘いしました。残念ながら奥様は別件で参加できなかったのですが、同じく山大出身の旦那様である紘季先生に来ていただきました。また、中西雄太先生は神戸大学の整形外科ですが、たまたま彼の学位審査を私が担当することになり、山大出身と知って本会にお誘いしました。中西先生は、中学校から高校、大学(カレッジ、CCSU)、サ

ンディエゴ)時代をアメリカで過ごし(中西先生、私の記憶が間違っていたらすみません)、ご自分が日本人であるというアイデンティティーを強く持つようになったとのこと、山口大学医学部に学士入学し、H24年に卒業されて神戸大学の整形外科に所属されています。日本語より英語のほう

が得意だそうで、学位審査発表は英語でした。そうですが、あいにく日本語で話すことが必須なのでちよつとつらかったそうです。他にご参加の先生方のお話は文字制限のため省略いたしますが、皆様が大変楽しい近況報告をされました。以下にご参加された方々のお名前を記します。小島伸三郎先生(S49)、桑原健先生(S50)、小山治先生(S50)、長谷川英夫先生(S50)、平松邦夫先生(S51)、京谷泰明先生(S53)、足立佳世子先生(S51)、伊藤直人先生(H1)、井上裕文先生(H2)、西山隆之先生(H3)、水谷和郎先生(H4)、中嶋千也先生(H6)、杉谷大造先生(H9)、富永貴志先生(H10)、富士井睦先生(H14)、北田真平先生(H18)、松本卓也先生(H20)、保原祐樹先生(H23)それから今年度から兵庫支部長が小山治先生から私に交代となりましたが、小山先生には引き続きご支援をいただきます。同門の皆様、どうぞ、よろしくお願いたします。

(小谷稜治(S62))
(写真はP14に掲載)

山陰支部会

令和6年7月20日、梅雨の終わり頃の蒸し暑い日に福田進太郎霜仁会・会長にご出席頂き、霜仁会山陰支部総会を開催しました。昨年は霜仁会山陰支部の時に島根県、鳥取県ともコロナ患者が急増し、懇親会を中止しました。今年もコロナ患者が増えてきてホテルから「懇親会は開催されますか？」と問い合わせがありました。感染に注意しながら行うこととしました。総会では2023年度事務報告、会計報告に続き、2024年度行事予定、予算案の報告を行い、それぞれお認めをいただきました。今年の総会で最も大きな議案である役員交代を提案し、支部長は西村新吉先生から川内秀之先生に、浜田地区の副支部長を飯田博先生から明石晋太郎先生、出雲地区副支部長を大田宣弘先生から石橋 豊先生、会計を石橋 豊先生から大西浩二先生へ交代、西村新吉先生に顧問、大田宣弘先生に幹事となって頂くことをお認めいただきました。山陰支部では若い先生方が出陣が特に少なく、どうしたら若い先生に参加していただけるのか頭が痛いところでした。

講演会では新支部長・川内秀之先生の座長で福田進太郎霜仁会会長による「最近の山口大学医学部と宇部市の状況について」を写真とともにお話し頂きました。空撮された医学部キャンパスは学生時代に野球の医局対抗が行われていた運動場もなくなっており、それでも敷地は狭く、これからの医学部の発展はどうなるのだろうかと感じました。また、宇部市内の様子では銀天街、新天町、三炭町や駅前大和、中央大和、エムラ等、学生時代の賑やかさとは全く変わり、寂れているのと建物が無くなっていることに吃驚すると同時に非常に寂しく感じました。続いて昨年、島根大学医学部環境生理学教授に就任された岸 博子先生の教授就任講演「血管攣縮の病態生理を担う分子機構の解明」を、今年3月に島大を退職され、岩国保健所所長に8月から就任される吉井裕規先生の座長でいただきました。血管攣縮の複雑な分子機構を詳しく、わかりやすく講演して頂きました。講演されたお仕事はほとんど山大でされたもの

ということでしたが、これから島大で続けていきたい仕事の方向性もお話し頂き、非常に有意義な時間を過ごすことができました。質問もありましたが、時間が無くなり、討論は懇親会に持ち越されました。

総会終了後、集合写真を撮影し、懇親会に移りました。懇親会には久しぶりに福田会長夫人にも参加して頂き、福田会長のご挨拶に続き、川内新支部長の乾杯で開始し、しばらくして全員の近況報告に移りました。支部会員の年齢が上がっていることを反映して近況では皆さん、「耳が遠くなつた」「足腰が痛い」「病気を患つた」という話が多く、「フレイルにならないように歩いている」と健康に注意している先生も多くおられました。コロナ感染が広がっていることから当初予定していた二次会は中止としました。懇親会は長い間支部長をしていた西村新吉先生の一本締めで終わりました。来年は7月26日浜田ワシントンホテルで支部総会を開催しますので沢山の先生のご出席をお待ちしています。

クラス会報告

楽しいクラス会の様子を八〇〇字程度にまとめて写真を添えてお送りください。

三六会

三六会(土曜会) 新緑の候、昭和36年卒、土曜会の皆様いかがお過ごしでしょうか。今年、全員米寿を迎えます。すでに迎えられる方もあります。人生において記念すべき節目の年齢です。6月30日、正午より、宇部市の割烹「よしくに」で米寿クラス会を開きます。昼間の会ですから京都からでも福岡からでも日帰りができます。意を決してお出かけください。卒業41名、右案内状発送17通。当日出席7名。伊藤夫妻、北村君、小牧君(同伴)、高島君、高田君(同伴)、松本(同伴)。年ごとに飛び交う会話の音が大きくなる。元氣な証拠である。4名以上集まれば土曜会成立と決定。来年は勿論、再来年の卒寿クラス会の成立を誓い合った。(松本)

(写真はP14に掲載)

五七会

令和6年6月8日(土)、今回担当の全さんの差配により、京都鴨川の川床に夫婦での参加者を含む24名が集まり、晴天の中で心地よい風を受けながら、美味しくお洒落な日本料理を楽しんだ。始めは「あれ誰?」などと騒いでいたが、酒が進むにつれて懐かしい学生時代の顔が戻ってきた。あの日から42年、彼岸へと旅立った友も増えてきたが、参加の皆さんはまだまだ元気で活躍中の方である。秋山哲司・久留米聖マリアグループ13年目。毎日カメラ15例ほど。身体が資本です。岩崎哲己・開業して26年。八幡医師会の理事をしています。上野 尚・宇部協立病院で一人整形外科医をしています。75才まで頑張るつもりです。大谷達夫・216床の精神科単科病院と54床の併設老健の医療法人二山会の理事長としてまだまだ現役頑張っています。岡田司郎・岡田クリニック、神戸市灘区医師会会長、神戸牛を食べにきてください。奥中国之・整形外科開業、コテコテの大阪のおっさんになってしまいました。金城和代・まだ、現役です。声楽のレッスント、イタリ

ア語を楽しんでいます。川上不二夫・今年で開業満20周年です。最近、仕事がいよいよ面白くなってきました。川上初美・小児科医を継続中。毎日、子どもたちからエネルギーをもらっています。西宮で勤務医しています。一回は、全員が70才を超

え、3年後に長崎で会おう」と今回欠席の水田陽平君に川床から幹事を承を取り付けて、お開きとなった。(中村康彦)

2024年8月24日かめ福オンプレイス(旧ホテルかめ福)にて「平成7年ごろ卒業生同窓会」を開催しました。平成7年ごろ卒業生同窓会として、この学年での途中乗車組、途中下車組にも呼びかけて1次会参加者は31名。2次会は19名と盛況な会となりました。今回、山口県内科医学会学会主幹となった田村博子さんが武藤倫弘君(京都府立医科大学 分子標的予防医学/保健予防医学教室教授)に特別講演を依頼したのできつかけに発起人となり7年ぶりの開催になりました。今回はじめて参加する人にとっては卒業30年ぶりの再会となりましたが、不思議なもので会った瞬間から何の違和感なく会話が出来るのに驚きと同窓会のすばらしさを感じました。会には和気あいあいとした雰囲気です。会場では鈴木克佳君が作成してく

H七会

(写真はP14に掲載)

参加の皆さんはまだまだ元気で活躍中の方である。秋山哲司・久留米聖マリアグループ13年目。毎日カメラ15例ほど。身体が資本です。岩崎哲己・開業して26年。八幡医師会の理事をしています。上野 尚・宇部協立病院で一人整形外科医をしています。75才まで頑張るつもりです。大谷達夫・216床の精神科単科病院と54床の併設老健の医療法人二山会の理事長としてまだまだ現役頑張っています。岡田司郎・岡田クリニック、神戸市灘区医師会会長、神戸牛を食べにきてください。奥中国之・整形外科開業、コテコテの大阪のおっさんになってしまいました。金城和代・まだ、現役です。声楽のレッスント、イタリ

ア語を楽しんでいます。川上不二夫・今年で開業満20周年です。最近、仕事がいよいよ面白くなってきました。川上初美・小児科医を継続中。毎日、子どもたちからエネルギーをもらっています。西宮で勤務医しています。一回は、全員が70才を超

え、3年後に長崎で会おう」と今回欠席の水田陽平君に川床から幹事を承を取り付けて、お開きとなった。(中村康彦)

2024年8月24日かめ福オンプレイス(旧ホテルかめ福)にて「平成7年ごろ卒業生同窓会」を開催しました。平成7年ごろ卒業生同窓会として、この学年での途中乗車組、途中下車組にも呼びかけて1次会参加者は31名。2次会は19名と盛況な会となりました。今回、山口県内科医学会学会主幹となった田村博子さんが武藤倫弘君(京都府立医科大学 分子標的予防医学/保健予防医学教室教授)に特別講演を依頼したのできつかけに発起人となり7年ぶりの開催になりました。今回はじめて参加する人にとっては卒業30年ぶりの再会となりましたが、不思議なもので会った瞬間から何の違和感なく会話が出来るのに驚きと同窓会のすばらしさを感じました。会には和気あいあいとした雰囲気です。会場では鈴木克佳君が作成してく

れたスライドが花を添え、ポリクリ時代の懐かしい写真から7年前の同窓会の写真、生まれ変わった大病院やドクターヘリなどの写真が披露され盛り上がりました。驚いたことに6名が教授になっていました。木村和博君（山口大学医学部眼科学講座）駒野淳君（大阪医科薬科大学感染制御学講座）古川貢之君（宮崎大学医学部心臓血管外科学講座）安松隆治君（近畿大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座）白石晃司君（山口大学医学部泌尿器科学講座）まさに同期の誇りです。

次に出席者全員に近況報告をしていただきました。絵本の出版をしたり、キャンプングカーをフル活用していたり、レノファサポーター&株主であったり、医者不足や指導方法に苦慮している話、出生率低下が激しく、人口減少はそう遠くない話、自分たちの子供までも同学年でポリクリの際に同期に指導してもらっている話など大笑いする内容から考えさせられる内容まで多岐にわたっており大好評でした。女性医師の参加も多く仕事と家庭と両立され前線で頑張っておられる信念とパワーのすばらしさ



三六会



五七会



H七会

が印象的でした。時間はあつという間にすぎて制限時間を超過しても話が尽きず強制的に2次会へ移動。2次会には予定人数以上の飛び入り参加がありうれしい限りでした。2次会も大いに盛り上がっていました。夜も更け次回の再会を誓って解散となりました。今回残念ながら参加できなかった同級生も次回は是非出席してみてください。元気がますますよ！田村さん、鈴木君幹事お疲れ様でした。
(草野倫好)



兵庫支部会



山陰支部会

9月、夏も終わりに近づき涼しさを感じる時期ですが今年はまだに35℃を超える日々が続いています。調べるど東京での平均気温は20年前と比し2℃ほど上昇していました。100年前と比較しても6℃上昇している事から温暖化は着実に進んでいます。温暖化により高齢者をはじめとして健康にも大きな影響が出ると思われます。今後は更なる温暖化対策、厳重な暑さ対策が必要になるでしょう。

(藤野 隆)

編集後記

訃報

- 橋田忠昭先生（昭63年卒） 令和6年4月5日逝去
 - 内田善仁先生（昭50年卒） 令和6年5月20日逝去
 - 柳澤公明先生（平10年卒） 令和6年6月5日逝去
 - 平川 修先生（昭52年卒） 令和6年7月4日逝去
 - 上田尚紀先生（昭41年卒） 令和6年7月27日逝去
 - 野中兼男先生（昭25年卒） 令和6年8月21日逝去
- ご冥福をお祈りいたします。

絵画寄贈

小川健治（昭和47年卒）先生から、渡部耿賛画伯による絵画が寄贈され、霜仁会館1階多目的ホールに飾られました。



「たそがれのシーヌ」
作 渡部耿賛(Watanabe Akiyoshi)

広島生まれ。1977年渡仏し、現在ヴェルサイユ在住。フランス芸術家協会会員、フランス画壇で48年、ヨーロッパ各地の風景を洗練された光と優美な色彩で描き続ける。本作品は、暮れゆくシーヌ、それに溶け込むような残照のノートルダム、明暗の対比と色合いが美しい画伯代表作の一つです。

贈 小川健治(昭和47年卒業)